

地域包括ケア病棟における在院日数が長期化

となる患者の傾向

～リハビリテーション介入者での影響を与える因子の検討～
 東岡佳代¹⁾, 中郷香織¹⁾, 大泉達矢¹⁾, 中村文香¹⁾, 荒木俊明¹⁾, 亀井日奈子¹⁾, 久保美子²⁾, 中西嘉巳³⁾
¹⁾ 市立三野病院リハビリテーション室 ²⁾ 市立三野病院看護部 ³⁾ 市立三野病院

【緒言】

平成26年度の診療報酬改定にて地域包括ケア病棟が新設され、当院でも平成26年7月より開設した。地域包括ケア病床入院患者の中には60日を超えて入院している患者がいることが問題となっていた。今回、入院が長期化する因子を検討し、特徴を明確化させることを目的に検証したので若干の考察を含め報告する。

【結語】

地域包括ケア病棟に入院リハビリテーションを実施した患者の入院が長期化する要因を調査した。入院時背景から入院が長期化する要因があった。60日超過群と未満群に分けて比較し、日常生活動作や介護保険サービスの調整に有意差があった。入院期間を超過することなく地域への復帰できる可能性が示唆された。

【対象】

地域包括ケア病棟に入院しリハビリテーションを実施した患者137名
 平均年齢78.1±11.7歳
 男性50名平均年齢75.3±13.0歳 女性87名 平均年齢80.2±10.5歳

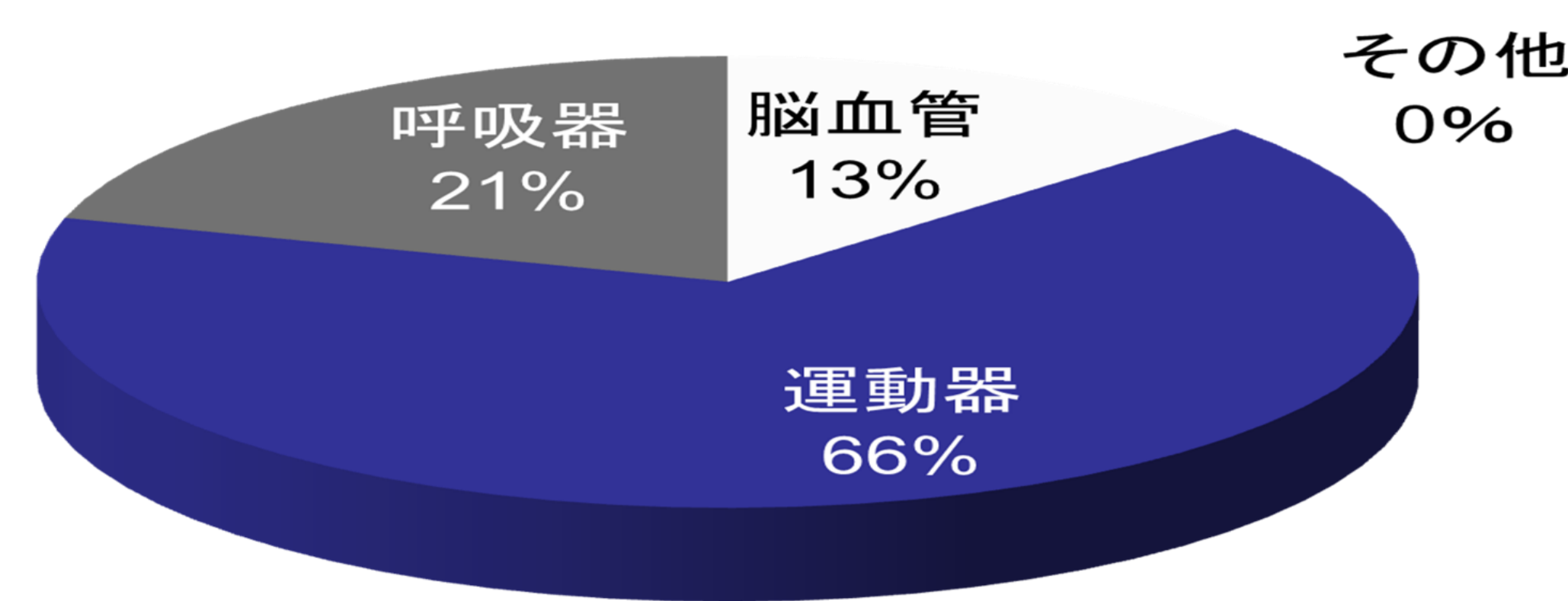


図 疾患分類の割合

【方法】

群の編成
超過群
 →60日を超えて退院したもの
未満群
 →60日以内で退院したもの

データ処理方法
 ・入院が長期化する因子分析
 重回帰分析(ステップワイズ回帰分析)
 ・地域包括ケア病床60日超過群と未満群の比較
 X²検定、マンホイットニーU検定
 ・統計ソフトStat View 5.0J
 ・有意水準 5%

因子分析の収集項目

- 入院時の背景**
- ・年齢(歳)
 - ・性別(男女)
 - ・手術の有無
 - ・入院前の生活状況(家、施設)
 - ・入院時の介護保険の有無
 - ・入院時の介護度(要支援、要介護)
 - ・認知機能の有無
 - ・家人の有無
 - ・入院時のBarthel Index(以下BI)(0~100点)
 - ・在院日数(日)

群間の比較項目

- 入院時の背景に加え、退院時の背景**
- ・退院時の介護保険の有無
 - ・退院時の介護度
 - ・退院先(自宅、家人宅、転院、老健、特養など)
 - ・在宅訪問の有無
 - ・移動レベル(独歩、杖歩行、歩行器、車椅子、ベッド)
 - ・トイレレベル(トイレ、PTイレ、ベッド)
 - ・入浴レベル(浴槽、シャワー浴、特別浴槽)
 - ・1ヶ月後のBI(0~100点)
 - ・退院時のBI(0~100点)
 - ・内科介入の有無
 - ・Nutrition Support Team(以下:NST)介入の有無

【結果】

入院が長期化する因子分析

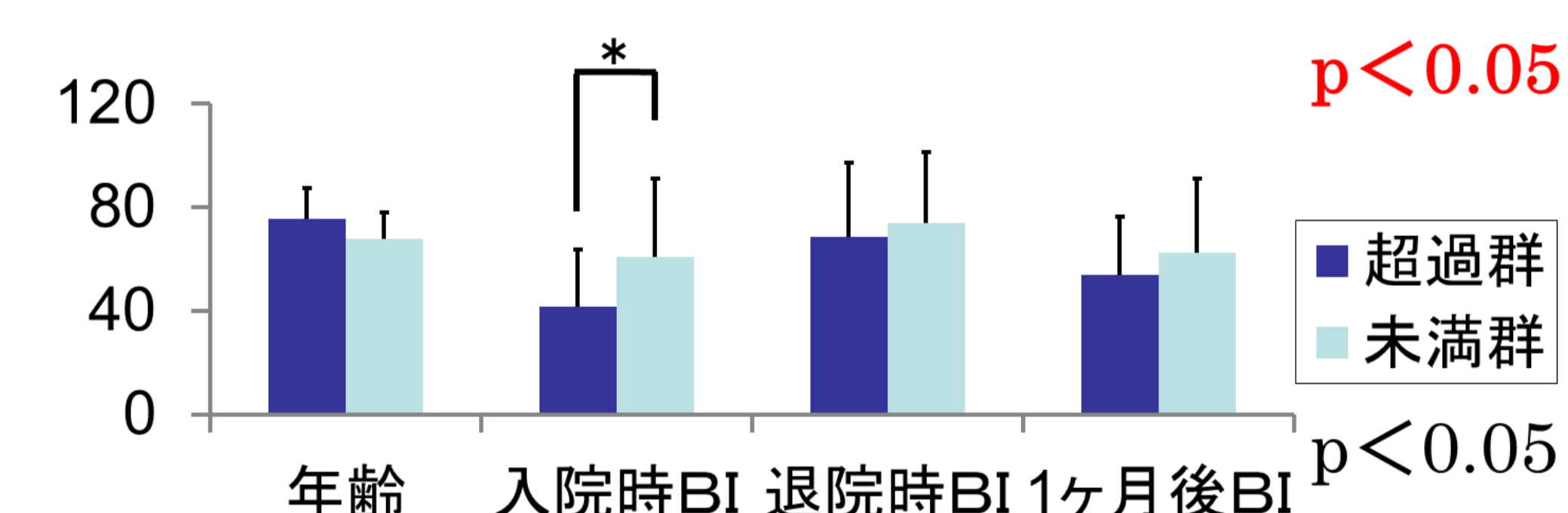
採用	回帰係数
手術の有無	-11.737
入院時介護保険の有無	14.154
入院前の生活レベル	-26.918
家人の有無	11.662
入院時のBI	-.478
定数項	100.399
不採用	
年齢	
性別	
入院時の介護度	
認知機能の有無	

決定係数R²=0.245 p<0.05

2群間の比較

収集項目	超過群(n=11)	未満群(n=126)	p値
性別(名)	男性5 女性6	男性45 女性81	.414
手術	あり4 なし7	あり46 なし80	.9924
入院時介護保険	あり1 なし10	あり46 なし80	.0662
退院時介護保険	あり10 なし1	あり69 なし57	.0053
入院時介護度	無10、支①0、支②0、介①0、介②1、介③0介④0、介⑤0	無80、支①7、支②7、介①8、介②11、介③5介④1、介⑤7	.785
退院時介護度	無1、支①1、支②0、介①3、介②2、介③1介④1、介⑤2	無65、支①9、支②11、介①9、介②12、介③12介④5、介⑤3	.0450
入院前の生活場	自宅11 施設0	自宅111 施設15	.2253
退院時の生活場	自宅5、家人宅1、転院1、老健0、特養4、	自宅86、家人宅4、転院6、老健2、特養28、	.5629

収集項目	超過群	未満群	p値
退院前訪問	あり4 なし7	あり14 なし112	.0174
移動レベル	ベッド0、車椅子4、杖歩行4、独歩1、歩行器2	ベッド6、車椅子16、杖歩行44、独歩50、歩行器10	.1241
トイレレベル	ベッド2、PTイレ4、トイレ5	ベッド20、PTイレ9、トイレ97	.0053
入浴レベル	特浴2、シャワー浴6、浴槽3	特浴13、シャワー浴56、浴槽57	.4618
家人	あり9 なし2	あり92 なし34	.5247
内科介入	あり9 なし2	あり78 なし48	.1883
NST介入	あり4 なし7	あり15 なし111	.0244



【考察】

在院日数の長期化の因子

- 1.手術をしていない
- 2.入院時に介護保険の認定を受けていない
- 3.入院前は自宅で生活している
- 4.家人が同居している
- 5.入院時のBIの合計点が低い

原因

1. 脳血管障害のリハビリテーションや骨折を保存治療の場合に免荷の時期などに長期間が必要である(岩井ら、)
2. 介護保険を利用すると申請から認定に時間が必要
3. 退院先の選択肢が多い
4. 家人のゴール設定が高く、長時間かかることがある
5. 日常生活動作において介助量が多い

超過群の特徴

- ✓ 退院時に介護保険の認定をうけていることが多い
- ✓ 退院時の介護度が要介護1が多い
- ✓ 家屋改修目的に在宅訪問が多い
- ✓ トイレかポータブルトイレを利用して排泄を行っていることが多い
- ✓ 入院時のBIが低い
- ✓ NSTの介入が必要となることが多い

身体機能が高くても、介護保険の認定や在宅訪問後の住宅改修、栄養状態の改善などの期間を考慮

入院期間を超過することなく退院